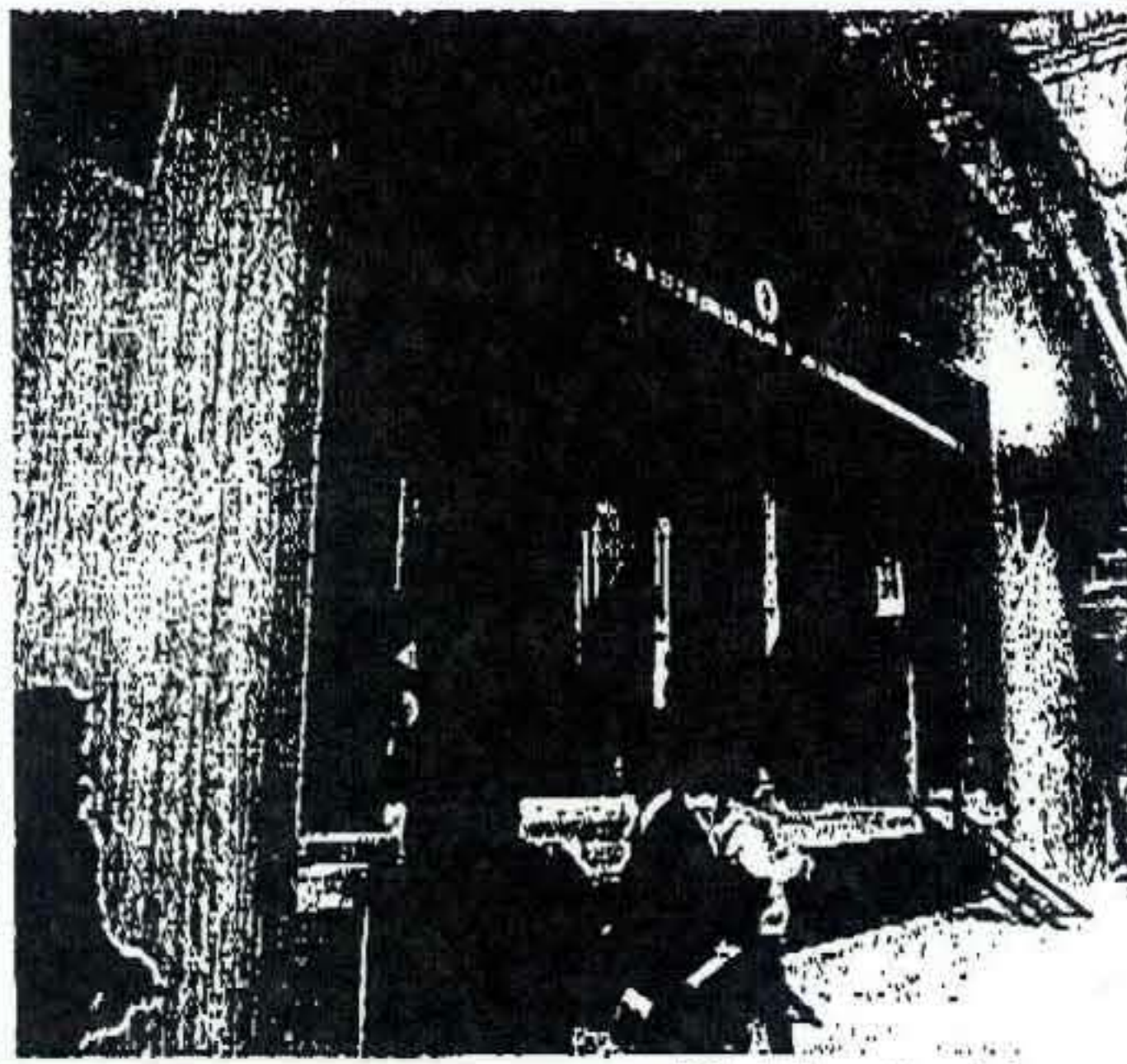


# 農業 木造校舎見学会に400人超

## 木質系素材を意匠的に使用

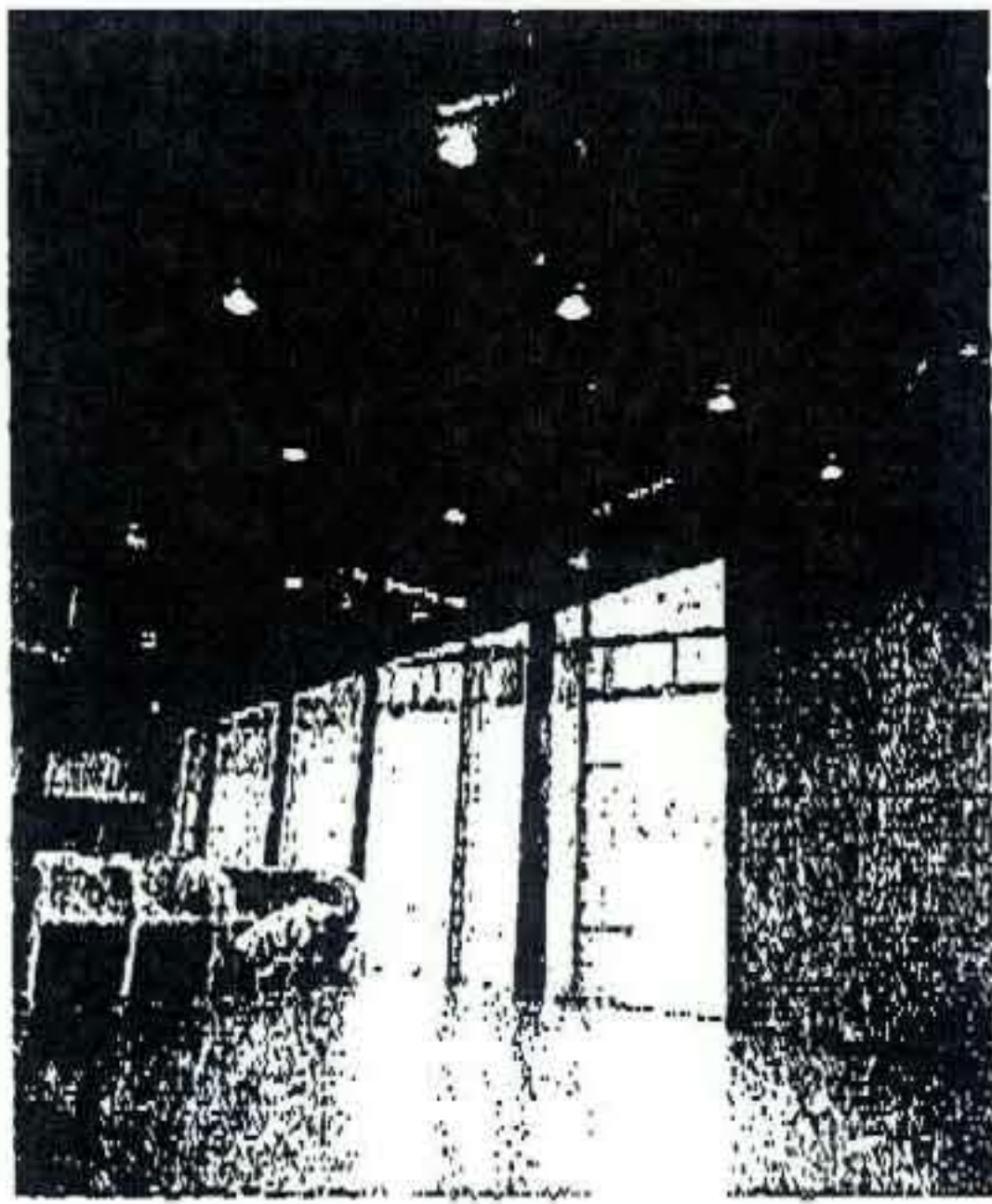
NEWCA

次世代木質建築協議会(NEWCA、柴田洋雄会長)は13日、埼玉県熊谷市で建設中の「埼玉県農業大学校 木造校舎」見学会を開催、400人を超える参加者が集まり、木造建築に対する関心の高まりを示す形になった。



講堂の舞台の壁に「LVL」を意匠的に使用(右)、天井に使用したもみがらエコボード(下)

この施設は埼玉県が全国初の木造の農業大学校として、鶴ヶ島市にあるものを熊谷市に移転することを決め、県の木造推進化の方針の下、県産材を活用する方針で



建設が進められている。

延べ床面積7753平方メートルの規模で、建物は全体で22棟。このなかで教室、寄宿舎などがあるセンターゾーンが9棟が分棟方式で建設され学生寮3棟(2320・89平方メートル)、食堂棟(482・94平方メートル)、事務・実験棟(1153・44平方メートル)、講堂棟(834・45平方メートル)などこれらをつなぐ通路棟(464・40平方メートル)からなる。

木材使用量は1109・19立方メートル、このうち県産材は1081・26立方メートルと97%に相当する。埼玉県杉大断面集成材(遠野グループ)2200X1520mm、E105-F22

5などを梁で現しに使用したほか、講堂棟やメディアギャラリ、通路棟の壁にLVL(キートック)を繊維方向にそろえて意匠的に使用したり、階段にも使用。メディアギャラリーの天井や掲示板の一部にも「もみからエコボード」(コバリン)を使用した。

基本設計は日総建、実施設計は三四五建築研究所、設計監理は松下設計、施工は島村工業、中里建設、ケーシーエム、斉藤工業、守屋八潮建設、古郡建設、時田工務店、構造材供給はシエルター。

天井と掲示板に「もみからエコボード」が採用されました。

株式会社 **コバリン**  
総務部